

| | | | |
|-------|-------------------|-----|------|
| 授業科目名 | 基礎ゼミナール (2100308) | | |
| 時間割名 | 基礎ゼミナール (51103) | | |
| 時間割担当 | 金山憲正 | | |
| 実施期 | 通年 | 単位数 | 2 必修 |
| 曜日・時限 | 金・1 | | |

授業の目標・概要

基礎ゼミナール において身につけてきた文献購読による内容やアカデミックスキルを活用して、より幅広い文献や資料にあたることによって、自らの専門知識や学士力を深化拡充していく。次年度の人間教育学ゼミナールにおいて自らの専門領域を決定していくために、文献購読会や研究報告会などを繰り返し設定していく。

学習の到達目標

- ・課題を発見し、探求し、解決する手法を考えて実践する
- ・論理的な構成で、説得力のある発表を行う
- ・グループ討議や相互批評を通して、アカデミックスキルを高める

授業方法・形式

- ・2回生クラス担任団が共同して指導を行う。必要に応じて、クラス内の4～5名程度の小グループを組織する。
- ・具体的なテーマを設定し、学生自身が考え、調べてまとめ、最終的に発表するまでを主体的に行う。
- ・調査、観察などを含む情報収集方法、ブレインストーミング、プレゼンテーション、意見交流など多様な活動を行う。

授業計画

- 第1回 ガイダンス : 「基礎ゼミナール」の意義と目標
 第2回 ガイダンス : 目標設定と履修計画
 第3回 教育情報の分析と活用 : ニュースを読む
 第4回 教育情報の分析と活用 : 教育雑誌を読む
 第5回 教育情報の分析と活用 : 学会論文を読む
 第6回 教育情報の分析と活用 : 教育書を読む
 第7回 教育現場を知る : 先輩教師に学ぶ (教育環境)
 第8回 教育現場を知る : 先輩教師に学ぶ (生活環境)
 第9回 教育現場を知る : 先輩教師に学ぶ (学習環境)
 第10回 教育現場に関わる : 学校支援ボランティア
 第11回 教育現場に関わる : 学校支援ボランティア
 第12回 教育現場に関わる : 学校支援ボランティア
 第13回 教育現場に関わる : 学校支援ボランティア
 第14回 前期の学びの成果と課題: プレゼンテーション
 第15回 前期で学びの成果と課題: プレゼンテーション

【後期】

- 第1回 ガイダンス: 「基礎ゼミナール」の意義と目標を確認する
 第2回 人間教育学ゼミナールを知る : 担当教員の研究成果に学ぶ
 第3回 人間教育学ゼミナールを知る : 担当教員の研究成果に学ぶ
 第4回 人間教育学ゼミナールを知る : 担当教員の研究成果に学ぶ
 第5回 個人で設定したテーマについて調べる・考える - テーマを設定する -
 第6回～第8回 個人で設定したテーマについて調べ、考え合う - 人間教育学ゼミナール担当教員からの助言等を生かしながら、新聞・図書・雑誌・調査による情報収集を行う -
 第9回～第10回 個人で設定したテーマについて調べ、考え合う - 発表原稿、レジュメ等の作成 -
 第11回～第14回 個人で設定したテーマについて発表し、意見交流を行う。
 第15回 意見交流会をふまえ、自分たちの学びや取り組みについてまとめる。

成績評価の基準

積極的な授業参加、プレゼンテーション、課題・レポート等を総合的に評価する。

授業時間外の課題

大学での授業は、自ら考え、疑問や問題点を整理することが、これまで以上に求められる。学校教育や教師としてのあり方等について、普段から見識を高めるようにすること。

人間教育学ゼミナールに向かう取組の主体は各個人となる。ただし、その内実を深めるために、授業時間外においてもグループ討議を積極的に行うこと。

メッセージ

大学での授業は、既存の知識を「覚え」「正解を導き出す」ことだけではありません。自ら考え、疑問や問題点を整理し、それを解決するための方法を模索することが大切です。「基礎ゼミナール」では、こうした研究に取り組むとき必要な「アカデミック・スキル (Academic Skills)」を学習します。人間教育学ゼミナール における研究を続けていくために必要なことを学び、着実に研究のステップを歩んでいくことを期待します。

教材・教科書

特になし。必要に応じて、授業中に指示します。

参考書

特になし。必要に応じて、授業中に指示します。